

# 妙安寺だより 309

## 暦の話 ⑤ 語句の解説(1)

昨年配布いたしました暦(妙法一天暦)の中の語句(3ページ参照)を解説します。

### 「読み方」

暦は、方角・方位を中心に説かれています。まず、方位・方角の読み方を述べてみましょう。

十干(じっかん)＝甲(きのえ)・乙(きのと)・丙(ひのえ)・丁(ひのと)・戊(つちのえ)・己(つちのと)・庚(かのえ)・

辛(かのと)・壬(みずのえ)・癸(みずのと)。

「え」は兄の義で陽・「と」は弟の義で陰を意味します。

そこで十干のことを「えと」といいます。

十二支(じゅうにし)＝子(ね＝北＝午前0時)・丑(うし)・寅(とら)・卯(う＝東＝午前6時)・辰(たつ)・巳(み)・

午(うま＝南＝午後0時)・未(ひつじ)・申(さる)・酉(とり＝西＝午後6時)・戌(いぬ)・亥(い)

還暦(かんれき)＝十干と十二支を組み合わせると、甲子を始めに、乙丑・丙寅・と進んで最後の六十番目が癸亥となり、また最初の甲子に戻ります。これを現在では還暦と呼んでいます。

### 「歳徳神(としとくしん)」

歳徳神については多くの説がありますが、「簠簋(ほき)」によると「歳徳頗梨采女(としとくはりさいじょ＝牛頭天王の后)也、八将神母也、容顔美麗忍辱慈悲之躰也」とある。

年の始めに祀る神で、その年の十干(じっかん)によって在位の方位が決まります。この神のある方位を明(あき)の方、または吉方(えほう＝恵方)ともいい、万事に吉とする。正月元旦にこの方角にある神社仏閣に恵方詣りと称し、参詣して一年中の吉福を祈ります。

### 「八将神(はっしょうじん)」

吉凶方位図の中に記載されています。

八将神とは、太歳(たいさい)・大將軍(だいしょうぐん)・太陰(たいおん)・歳刑(さいけい)・歳破(さいは)・歳殺(さいせつ)・黄幡(おうはん)・豹尾(ひょうび)をいい、大將軍だけは同じ方角に三年滞在し、俗に「三年ふさがり」といわれており、この方向は大凶である。

### 「金 神(こんじん)」

この方位を犯すと七人を殺すといわれている恐ろしい神。

甲(きのえ)・己(つちのと)の年は午・未・申・酉の方角。乙(きのと)・庚(かのえ)の年は辰・巳の方角。丙(ひのえ)・辛(かのと)の年は子・丑・寅・卯・午・未の方角。丁(ひのと)・壬(みずのえ)の年は寅・卯・戌の方角。戊(つちのえ)・癸(みずのと)の年は子・丑・申・酉の方角がそれぞれ凶といわれています。

### 「甲子(きのえ ね＝大黒天)」

甲子の夜は大黒天を祭る。子(鼠)は大黒天の使者であるので、十二支の子の日に行なわれる行事。

### 「庚申(かのえ さる＝帝釈天)」

庚申の日は金気が強い日で、天地万物の気、庚申の日に変革されるから最も重要な日とされている。神道では猿田彦を、仏教では書面金剛を祭り、道教では三尸の説をたてる。

この日には、庚申待ちと称して、中心をなす家に人々が集まり、夜を徹して祭祀を行なった後、会食をする習わしがある。

### 「己巳(つちのと み＝弁財天)」

己巳は福德の神とされる弁財天を祭る日である。巳(へび)は弁財天の使者であることから、巳の日が選ばれている。

「甲子」「庚申」「己巳」は、いずれも同じ思想から出た行事で、日を定めて神仏を祭る風習があったことを示すもので、江戸時代の暦には、必ずこの三つの行事が記載され、現在まで継承されています。